

【学習会の内容】

海のない江南市では出会うことが難しい海の生き物の種類や暮らしなどを学びます。また、ヒトデの模型作りなどを通して海の理解を深めます。



【学習会の様子】



NPO法人トンボと水辺環境研究所の宮田先生の

「海遊びをするためには、満潮と干潮とどちらがいいか」という質問から始まりました。

答えは「干潮」、特に潮位30cm以下のときにできる、潮だまりが理想的である。ということで、12月の潮位予測表から何日の何時が海遊びに理想的なのかを読み取る練習をしました。

表に数字が多く、読み取りが大変でしたが、みんな一生懸命に考えていました。

また、海遊びの危険も同時に学習しました。



ヒトデについての学習です。

ヒトデは、棘皮動物(きょくひどうぶつ)であり、基本的には五放射相称である。

その仲間には、ウニやナマコがいます。

(ナマコを切断すると、五本の線があります)

ヒトデの生態を学び、どのように増殖するかを学びました。

ヒトデは千切っても、二つに分かれてそれぞれで生きていくこともできるということを知り、驚きの声があがりました。

写真はヒトデをひっくり返して、足(管足)が生えて元に戻る様子を観察しています。

あさりの解剖を行いました。

あさりのカラからあさりの年齢を読み取りをしたり、あさりはどうの生態をしていて、どのような器官をもっているのかを実際のあさりを解剖して学習しました。

地球温暖化の原因の1つと考えられている二酸化炭素の増加は、海の酸性化にも影響することが心配されています。海が酸性化すると貝殻などの成分である炭酸カルシウムが作りにくくなり、貝などが減ってしまう可能性を学習し、全ての自然環境はつながっていることを考えました。



本物のヒトデからとった型の模型に自分の好きな色を塗り、砂をつけて本当の砂浜にヒトデがいるようにして完成です。

「こんな色のヒトデはいないだろ！」と張り切って色を塗る子供たちに、宮田先生が「本当に色々な色のヒトデがいるので、ぜひ海で探してみてください」と伝えていました。

